落雷事故防止のための対応

（文部科学省「学校の危機管理マニュアル作成の手引き」より一部抜粋）

大分市中学校体育連盟

1　雷の対応への留意点

（1）雷は、積乱雲の位置次第で、海面、平野、山岳など場所を選ばず落ち、周囲より高いものにほど落ちやすい。

① 直撃雷…グラウンド等周囲の開けた場所にいると、直接人体に落雷することがあり、その場合、約８割の人が命を落とすと言われている。

② 側撃雷…落雷を受けた樹木等のそばに人がいると、その樹木等から人体へ雷が飛び移ることがある。

（2）積乱雲が近づくサイン

① 真っ黒い雲が近づいてきた

② 急に冷たい風が吹いてきた

③ 雷の音が聞こえてきた　→　既に危険な状況である

（3）気象庁ホームページを活用し、

① 「雷注意報」の発表状況

② 「雷ナウキャスト」の確認（実際にどこで雷発生の可能性が高まる予測となっているのかを地図上で確認できるなどの情報が掲載されている）

2　避難の留意点（積乱雲が近づいてきたら）

（1）屋外活動を中断し、速やかに屋内に避難する。

① 鉄筋コンクリート建築、自動車、バスの内部は比較的安全である。

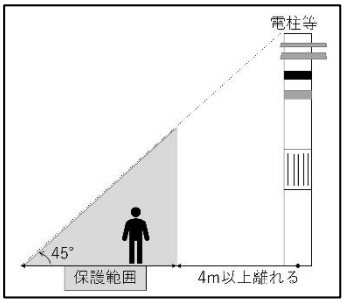
② 木造建築の内部も基本的に安全だが、全ての電気器具、天井・壁から１m以上離れればさらに安全である。

（2）安全な空間に避難できない場合

① 近くに避難する場所がない場合には、低い場所を探してしゃがむなど、できるだけ姿勢を低くするとともに、地面との接地面をできる限り少なくする。

② 電柱、煙突、鉄塔、建築物などの高い物体のてっぺんを 45 度以上の角度で見上げる範囲で、その物体から４m以上離れたところに退避する。

③ 高い木の近くは危険なので、最低でも木の全ての幹、枝、葉から２m以上は離れる。



３　屋外実施競技における対応

（１）陸上競技・駅伝

雷鳴や雷雲が近づき危険と判断した場合、競技を中断し、選手、役員、観客を安全な場所へ避難させる。

（２）サッカー

「サッカー活動中の落雷事故の防止対策についての指針」をもとに活動を行う。

（(公財) 日本サッカー協会 HPhttps://www.jfa.jp/documents/pdf/other/rakurai.pdf）

（３）軟式野球

雷鳴や雷雲が近づき危険と判断した場合、競技を中断し、選手、役員、観客を安全な場所へ避難させる。

（４）相撲

雷鳴や雷雲が近づき危険と判断した場合、競技を中断し、選手、役員、観客を安全な場所へ避難させる。

（５）ソフトボール

雷鳴や雷雲が近づき危険と判断した場合、競技を中断し、選手、役員、観客を安全な場所へ避難させる。

（６）ソフトテニス

天候アプリや雷探知機を活用して、施設担当者と連絡をとりながら、非常時は屋根のあるスタンドや室内、車内などへ避難するよう指示する。

（７）テニス

「雷雨が接近している場合は、試合を中断することができる。稲妻が目撃されてから 30 秒以内に雷鳴が聞こえたら雷が接近しているので、会場にいる全員が安全な場所に避難するべきである。最後の稲光が目撃されてから 30 分経過し、最後の雷鳴を聞いてから 30 分経過するまでは試合を再開するべきではない。」（JTA テニスルールブック「JTA 公式トーナメント管理関連規則」より）